



桐蔭キャリア通信 第5号

Toin Career News



和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校 平成26年7月16日発行

キャリア教育 ちょこっと研修 その22

『キャリア教育をするとどんな良いことがあるの?』

<キャリア教育の意義・効果>

- ① キャリア教育は、一人ひとりのキャリア発達や個人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。各学校がこの視点に立って教育のあり方を幅広く見直すことにより、教職員の教育の理念と進むべき方向が共有されると共に、教育課程の改善が促進される。
- ② キャリア教育は、将来、社会人・職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提にたつて、各学校段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指すものである。このような視点に立って教育活動を展開することにより、学校教育が目指す全人的成長・発達を促すことができる。
- ③ キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さを確認できる。このような取組を進めることを通じて、学校教育が抱える様々な課題への対処に活路を開くことにも繋がるものと考えられる。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

中央教育審議会答申 平成23年1月31日 第1章2(1)

③の「学校が抱える問題」についてですが、桐蔭中学校では教育目標を「総合的な人間力を備えた人材の育成」とし、具体的な目標として、

- (1) 確かな学力を有し、真理を追究しようとする資質や能力の育成
- (2) 豊かな感性と高い理性を備え、主体的に行動できる資質や能力の育成
- (3) 新しい時代を切り開くリーダーとしての資質や能力の育成

を掲げています。しかし、実際には「学習習慣が定着していなかったり、学力不振の生徒がいること」、「中だるみをいかに克服するか」、「専門委員会をはじめとする生徒会活動をいかに活発化するか」、「リーダーを育て切れていない」などの課題があります。中学校入学段階では5倍近い倍率の難関を突破してくるわけですが、学習面でしんどい子が生まれてきます。また中高一貫校であるがゆえに、「中だるみ」があり、高校進学直後の生活実態調査では、家庭学習の時間に明らかに差があります。中だるみの克服のためにどのように指導していくと良いのかも課題となっています。「中だるみ」については、進路学習を充実させることで一定の成果は出てきていると思いますが(根拠:ベネッセ学力推移調査 生活実態調査での「進路について全く考えたことがない」と答える生徒の割合は少なくなり、進路についてしっかり考える生徒が多くなっている)、その成果が学習習慣の確立までにはいたっていません。やはり入学してすぐに家庭での生活の中に学習時間をきちんと確保させられるような仕掛けをすることが大切だと感じているところです。専門委員会の活動については活発になりつつありますが、まだまだ教師主導になっており、生徒の自主的な活動にはいたっていません。また将来の和歌山、日本、世界で活躍するリーダーをどの程度育てることができているかも不安なところです。このように、桐蔭中学校では様々な課題があるわけですが、キャリア教育の研究開発を良いきっかけとし、本校が抱える課題を改めて全職員が認識し、その克服のための取組をさらに進めていければと考えます。

(文責 嶋田)

